**科目名　言語知識Ⅰ（Ｎ２）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **担当教員** | 森中　茂明 | | | | |
| **科目の種類** | 一般 | **単位区分** | 必須 | **単位数** | 2 |
| **授業方法** | 講義、演習 | **開講学期** | 前期 | **学年** | 2 |
| **学科・コース** | 情報システム学科 | | | | |

**授業概要**

スリーエーネットワークより出版されている「中級を学ぼう」（中級中期）を参考書として

日本語能力試験Ｎ２に対応する文法・文字語彙全般の内容を生活に即した形の教材で学ぶ

（日本語能力試験の「知識」の部分に相当する）

２年次で使う教材は１年次の教科書より一段階高度な内容になっています。

**カリキュラムにおけるこの授業の位置付け**

１年次に教科書として使用した本のシリーズの本を教材として使用するため１年次の授業との整合性が取りやすく１年生での授業の発展という形の授業が容易である。１年次と同じように最終的な目標は日本語能力検定試験の合格（Ｎ２）であるが、「試験のための勉強」ではなく生活に必要な（日本で生活する上で使用する）日本語を幅広く学習し、結果として試験に合格できる

実力を養成する。日本語学習での　日本語知識・聴解・読解　のうち、日本語知識の部分の学習に当たる。（Ｎ２に対応する授業になるが、Ｎ３に合格していない学生もいるのでその学生も意識した授業をする。）

**授業項目**

(1)　第１課：色①→本文を読んで「本文のキーワード」「言葉を確かめよう」

(2)　第１課：色②→学習項目（文法の学習）

(3)　第１課：色③→学習項目の練習（問題）＋プラスアルファ問題

(4)　第２課：ユーモア・ジョーク①→本文を読んで「本文のキーワード」「言葉を確かめよう」

(5)　第２課：ユーモア・ジョーク②→学習項目（文法の学習）

(6)　第２課：ユーモア・ジョーク③→学習項目の練習（問題）＋プラスアルファ問題

(7)　１課・２課総復習（Ｎ３未取得の学生に配慮する）

(8)　１課・２課の試験

(9)　第３課：制服①→本文を読んで「本文のキーワード」「言葉を確かめよう」

(10)　第３課：制服②→学習項目（文法の学習）

(11)　第３課：制服③→学習項目の練習（問題）＋プラスアルファ問題

(12)　第４課：算数①→本文を読んで「本文のキーワード」「言葉を確かめよう」

(13)　第４課：算数②→学習項目（文法の学習）

(14)　第４課：算数③→学習項目の練習（問題）＋プラスアルファ問題

(15)　３課・４課総復習（Ｎ３未取得の学生に配慮する）

(16)　３課・４課の試験

**授業の進め方**

授業は１単元を３回の授業で終了する形で行う、

１回目：文字語彙（板書での説明））

２回目：文法（板書での説明）

３回目：文法の問題を解く（板書＋プリント）

（１）〜（６）で不備だった部分を（７）で補い、（８）で試験を行う

（９）〜（１４）で不備だった部分を（１５）で補い、（１６）で試験を行う

**授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）**

各単元での重要な漢字の読み方と意味を学習する（読み：１０文字・意味：１０文字程度）。

各単元で文法（５〜６項目程度）を理解し使用できるようになる。

**成績評価の基準および評価方法**

８回目の授業の時ペーパーでの試験を行い評価する

・試験の点数が４４点以上であること

・８回の授業の内５回以上出席していること

以上２点を合格条件として、合格者の評価は試験の点数に授業態度や出席状況を加味して算出する

**教科書**

下記のテキストを授業の柱とし、学生のレベルに応じて講義資料を配布し，その資料に沿って授業を進める．

スリーエーネットワーク出版　「中級を学ぼう」（中級中期）

**参考書**

日本語能力試験対策問題集など。

**実務経験**

森中　茂明：昭和６３年よりコンピュータ教育学院で講師をつとめる

　平成１８年より留学生の日本語担当となり現在に至る。

**備考**

特になし